

第14回

## 十勝岳のふもと

# おいしいエネルギーが あふれる場所へ

久しぶりに上富良野へ出かけた。上富良野駅からタクシーで目的地に向かう途中、窓から十勝岳連邦が見える。その十勝岳からはもくもくと白い噴煙が上がっている。最近、十勝岳が噴火したのはいつだったのだろうか？と乗ったタクシーの運転手さんにさりげなく聞いてみると「30年前かなあ。だいたい30周期で噴火してるからねえ。またそろそろかも」という。そうか、そんな周期で噴火しているんだと、自分の住んでいる国が火山が多い国だということを思い出した。

その日はファームインに泊まり、夕食まで宿の周辺を散策してみた。十勝岳の反対側には芦別岳が見える。周りをぐるりと山に囲まれた富良野は盆地であり、空知川の流域の肥沃な土地だ。

そんな富良野は開拓に入る前はアイヌの人たちにフラヌ原野=臭い水が濁っている土地と呼ばれていたらしい。十勝岳の噴火で硫黄が川に流れ、魚が住めない川ばかりだったこともあり、アイヌの人にも住むには厳しい土地だったという。いまではさまざまな農作物が実る畑が広がり、ラベンダーの咲き誇る美しい風景や良質な温泉でたくさんの人がやって来る、道内でも有数の観光地になった。

この土地に根を下ろし開拓し、幾度もあつただろう十勝岳の噴火の歴史を乗り越えた先人たちの苦労が、後世にたくさんの恩恵をもたらしている。おかげさまでファームインの夕食や朝食も穫れたての野菜が中心のとても美味しい食事だった。夕食とともに、いただいたワインも土地の物だ。エネルギーあふれる大地とは富良野盆地のような場所なのだろうなと思う。



## すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。また、新作絵本「はたけのごちそうなーんだ？ くだもの」(アリス館)が4月19日に出版。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。



**多田ワイナリー**  
 小さな農園の  
 ワイナリー

野生酵母のワイン

ワインのほかに  
 シードル  
 やポワレも!

農園の中  
 に直売所  
 があるよ!



**あせ道より道**

農家のお母さんたちが  
 栽培した野菜も  
 たっぷり使ったメニュー  
 がいっぱい!!



**ノースランドギャラリー**

風景写真家の  
 高橋真澄さんの  
 ギャラリー  
 ♪ 行くときはopen  
 しているかチェック  
 してみよう!

食べものも  
 見るとこも  
 いろいろある  
 よね!

きれいな富良野の  
 写真がたくさん

